

## 数値プログラミング：公開鍵暗号

公開鍵暗号の基礎としての初等整数論

松谷茂樹

R S A暗号の理解に向け、初等整数論を紹介する。

### 素数とは

整数を  $\{\dots, -3, -2, -1, 0, 1, 2, 3, \dots\} = \mathbb{Z}$  と記す。  
 整数  $\mathbb{Z}$  の特徴は、足し算、引き算と掛け算が可能であることである。割り算は必ずしも上手く行かない。

足し算、引き算をひっくり返して加法と呼び、掛け算を積演算と呼ぶことにする。

割り算は必ずしも上手くできない場合があるが、例えば  $6 \div 3 = 2$  と割り算が上手くゆく場合がある。これを6は3で割り切れると言い、6や3、2、1は6の約数と呼ぶ。-2や-3も約数であるので、区別するために6や3などを正の約数と呼ぶ。

素数とは自分自身と1以外に正の約数を持たない1以外の正の整数である。

2, 3, 5, 7, 11, 13, 17, 19, 23, 29, 31, 37, 41, 43, 47, 53, 59, 61, 67, 71, 73, 79, 83, 89, 97, 101, 103, 107, 109, 113, 127, 131, 137, 139, 149, 151, 157, 163, 167, 173, 179, 181, 191, 193, 197, 199, 211, 223, 227, 229, 233, 239, 241, 251, 257, 263, 269, 271, 277, 281, 283, 293, 307, 311, 313, 317, 331, 337, 347, 349, 353, 359, 367, 373, 379, 383, 389, 397, 401, 409, 419, 421, 431, 433, 439, 443, 449, 457, 461, 463, 467, 479, 487, 491, 499, 503, 509, 521, 523, 541, 547, 557, 563, 569, 571, 577, 587, 593, 599, 601, 607, 613, 617, 619, 631, 641, 643, 647, 653, 659, 661, 673, 677, 683, 691, 701, 709, 719, 727, 733, 739, 743, 751, 757, 761, 769, 773, 787, 797, 809, 811, 821, 823, 827, 829, 839, 853, 857, 859, 863, 877, 881, 883, 887, 907, 911, 919, 929, 937, 941, 947, 953, 967, 971, 977, 983, 991, 997

### 剰余類

剰余類とは割り算した後の余りに着目したものである。

具体的な例として6の剰余類  $\mathbb{Z}/6\mathbb{Z}$  を考える。

整数  $n$  を6で割った余りは  $\{0, 1, 2, 3, 4, 5\}$  となるので  $\mathbb{Z}/6\mathbb{Z} = \{0, 1, 2, 3, 4, 5\}$  となる。

同じ余りを持つものは等しいとして、「 $1 \equiv 7 \equiv 13 \pmod{6}$ 」または「 $1 \equiv 7 \equiv 13 \pmod{6}$ 」または「 $1 \equiv 7 \equiv 13 \pmod{6}$ 」と書く。

よって、例えば、 $4 \equiv 10 \equiv 16 \pmod{6}$  となる。

$n$  が非負整数  $C$  言語で表現すれば  $n\%6$  としたものである。

重要な性質であるが正の整数  $n, m$  に対して

$$((n\%6) \times (m\%6))\%6 = (n \times m)\%6$$

と

$$((n\%6) + (m\%6))\%6 = (n + m)\%6$$

とできる。これらより  $2 \times 5 \equiv 10 \equiv 4 \pmod{6}$ ,  $2 + 5 \equiv 7 \equiv 1 \pmod{6}$  とする。

$2 + 4 \equiv 0 \pmod{6}$  より  $-2 \equiv 4 \pmod{6}$  と書くことができる。

### 素数 $p$ の場合

素数  $p$  に対しては

$\mathbb{Z}/p\mathbb{Z} = \{0, 1, 2, \dots, p-1\}$  に対して、

$\mathbb{Z}/p\mathbb{Z}$  の要素  $n \neq 0$  に対して  $\mathbb{Z}/p\mathbb{Z}$  の要素  $m$  で  $n \times m \equiv 1 \pmod{p}$  となるものが存在することが判っている。  $m$  は  $n$  の逆数と見なせる。  $m = 1/n$  とは書かない。

$\mathbb{Z}/p\mathbb{Z}$  の要素  $n$  に対して  $\mathbb{Z}/p\mathbb{Z}$  の要素  $l$  で  $n + l \equiv 0 \pmod{p}$  となるものが存在することが判っている。  $l = -n$  と見なせる。

### 素数 3, 5 の場合

x	0	1	2
0	0	0	0
1	0	1	2
2	0	2	1

x	0	1	2	3	4	5	6
0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	1	2	3	4	5	6
2	0	2	4	6	1	3	5
3	0	3	6	2	5	1	4
4	0	4	1	5	2	6	3
5	0	5	3	1	6	4	2
6	0	6	5	4	3	2	1

+	0	1	2	3	4	5	6
0	0	1	2	3	4	5	6
1	1	2	3	4	5	6	0
2	2	3	4	5	6	0	1
3	3	4	5	6	0	1	2
4	4	5	6	0	1	2	3
5	5	6	0	1	2	0	4
6	6	0	1	2	3	4	5

### 演習問題 1

$p = 5$  のとき、上記  $p = 3, 7$  と同様の積と和の表を作成せよ。

### 素数 17 の場合

$p = 17$  のとき、下記の表は  $\mathbb{Z}/17\mathbb{Z} = \{0, 1, 2, \dots, 16\}$  の内、零の除いたものの積を示したものである。  $5 \times 7 \equiv 1 \pmod{17}$  となる。それぞれに1になるものが存在する。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
2	2	4	6	8	10	12	14	16	1	3	5	7	9	11	13	15
3	3	6	9	12	15	1	4	7	10	13	16	2	5	8	11	14
4	4	8	12	16	3	7	11	15	2	6	10	14	1	5	9	13
5	5	10	15	3	8	13	1	6	11	16	4	9	14	2	7	12
6	6	12	1	7	13	2	8	14	3	9	15	4	10	16	5	11
7	7	14	4	11	1	8	15	5	12	2	9	16	6	13	3	10
8	8	16	7	15	6	14	5	13	4	12	3	11	2	10	1	9
9	9	1	10	2	11	3	12	4	13	5	14	6	15	7	16	8
10	10	3	13	6	16	9	2	12	5	15	8	1	11	4	14	7
11	11	5	16	10	4	15	9	3	14	8	2	13	7	1	12	6
12	12	7	2	14	9	4	16	11	6	1	13	8	3	15	10	5
13	13	9	5	1	14	10	6	2	15	11	7	3	16	12	8	4
14	14	11	8	5	2	16	13	10	7	4	1	15	12	9	6	3
15	15	13	11	9	7	5	3	1	16	14	12	10	8	6	4	2
16	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

### 公開鍵暗号のトイモデル I

ボブからアリスへ暗号化されたデータを送ることを考える。

1. アリスは素数  $p$  を選択する。(例えば、 $p = 17$  とする)
2. アリスは  $\mathbb{Z}/17\mathbb{Z}$  の数  $q$  を選択し、 $q'q \equiv 1 \pmod{p}$  となる  $q'$  を計算し、 $q'$  を鍵として記憶する。(例えば、 $q = 5$  として、 $q' = 7$  となる)  
 ここで  $q$  に対して  $q'$  を求めることが非常に計算量が大きいと仮定する。
3. アリスは  $p$  と  $q$  を公開する。(例えば、 $p = 17, q = 5$ )
4. ボブは公開された鍵  $p$  と  $q$  により、送りたいデータ  $n$  (ただし  $0 < n < p$ ) に対して、 $n' = nq \pmod{p}$  を計算する。
5. ボブはアリスに  $n'$  を送る。
6. アリスは、受け取った  $n'$  に対して  $n'q' \pmod{p}$  を計算する。  
 $n'q' = nq'q = n \pmod{p}$  より、復号できた。

### 演習問題 2 : 公開鍵暗号のトイモデル I

隣の席の人と、 $p = 17$  の場合のアリス側、ボブ側となって  $n'$  を聞き、元のデータ  $n$  を復号せよ。それぞれ2回、(アリスは  $q$  を自由に選択する。、ボブは  $n$  を自由に選択する。)

演習問題 3 : 公開鍵暗号のトイモデル I

隣の席の人と、 $32 > p > 17$  の素数で、上記のトイモデル I による公開鍵暗号による暗号化されたデータ通信を実施せよ。各 2 回。(アリスは  $q$  を自由に選択する、ボブは  $n$  を自由に選択する。)

演習問題 4 : 公開鍵暗号のトイモデル I

隣の席の人と、 $p > 22$  の素数で、上記のトイモデル I による公開鍵暗号による暗号化されたデータ通信を実施せよ。各 2 回

フェルマーの小定理 : 素数  $p$  の場合

素数  $p$  に対しては  
 $\mathbb{Z}/p\mathbb{Z} = \{0, 1, 2, \dots, p-1\}$  に対して、  
 $\mathbb{Z}/p\mathbb{Z}$  の任意の要素  $x \neq 0$  に対して、  
 $x^{p-1} \equiv 1 \pmod{p}$   
 となる。

素数 17 の場合

例えば、 $p = 17$  のとき、 $7^5 \equiv 11 \pmod{17}$  となる。

$x \setminus r$	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	2	4	8	16	15	13	9	1	2	4	8	16	15	13	9	1
3	3	9	10	13	5	15	11	16	14	8	7	4	12	2	6	1
4	4	16	13	1	4	16	13	1	4	16	13	1	4	16	13	1
5	5	8	6	13	14	2	10	16	12	9	11	4	3	15	7	1
6	6	2	12	4	7	8	14	16	11	15	5	13	10	9	3	1
7	7	15	3	4	11	9	12	16	10	2	14	13	6	8	5	1
8	8	13	2	16	9	4	15	1	8	13	2	16	9	4	15	1
9	9	13	15	16	8	4	2	1	9	13	15	16	8	4	2	1
10	10	15	14	4	6	9	5	16	7	2	3	13	11	8	12	1
11	11	2	5	4	10	8	3	16	6	15	12	13	7	9	14	1
12	12	8	11	13	3	2	7	16	5	9	6	4	14	15	10	1
13	13	16	4	1	13	16	4	1	13	16	4	1	13	16	4	1
14	14	9	7	13	12	15	6	16	3	8	10	4	5	2	11	1
15	15	4	9	16	2	13	8	1	15	4	9	16	2	13	8	1
16	16	1	16	1	16	1	16	1	16	1	16	1	16	1	16	1

演習問題 5

$p = 5, 7, 13$  のときに上記の表を作成せよ。

フェルマーの小定理 : 素数  $p, q$  に対する合成数  $pq$  の場合

素数  $p, q$  に対しては  
 $\mathbb{Z}/pq\mathbb{Z} = \{0, 1, 2, \dots, pq-1\}$  に対して、  
 $\mathbb{Z}/pq\mathbb{Z}$  の任意の要素  $x \neq 0$  で  $x$  が  $p$  または  $q$  の倍数でないものに対して、  
 $x^{(p-1)(q-1)} \equiv 1 \pmod{pq}$   
 となる。

素数 5, 3 の場合

例えば、 $p = 5, q = 3$  のとき、

$x \setminus r$	1	2	3	4	5	6	7	8
1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	2	4	8	1	2	4	8	1
3	3	9	12	6	3	9	12	6
4	4	1	4	1	4	1	4	1
5	5	10	5	10	5	10	5	10
6	6	6	6	6	6	6	6	6
7	7	4	13	1	7	4	13	1
8	8	4	2	1	8	4	2	1
9	9	6	9	6	9	6	9	6
10	10	10	10	10	10	10	10	10
11	11	1	11	1	11	1	11	1
12	12	9	3	6	12	9	3	6
13	13	4	7	1	13	4	7	1
14	14	1	14	1	14	1	14	1

素数 5, 7 の場合

例えば、 $p = 5, q = 7$  のとき、

$x \setminus r$	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	2	4	8	16	32	29	23	11	22	9	18	1
3	3	9	27	11	33	29	17	16	13	4	12	1
4	4	16	29	11	9	1	4	16	29	11	9	1
6	6	1	6	1	6	1	6	1	6	1	6	1
8	8	29	22	1	8	29	22	1	8	29	22	1
9	9	11	29	16	4	1	9	11	29	16	4	1
11	11	16	1	11	16	1	11	16	1	11	16	1
12	12	4	13	16	17	29	33	11	27	9	3	1
13	13	29	27	1	13	29	27	1	13	29	27	1
16	16	11	1	16	11	1	16	11	1	16	11	1
17	17	9	13	11	12	29	3	16	27	4	33	1
18	18	9	22	11	23	29	32	16	8	4	2	1
19	19	11	34	16	24	1	19	11	34	16	24	1
22	22	29	8	1	22	29	8	1	22	29	8	1
23	23	4	22	16	18	29	2	11	8	9	32	1
24	24	16	34	11	19	1	24	16	34	11	19	1
26	26	11	6	16	31	1	26	11	6	16	31	1
27	27	29	13	1	27	29	13	1	27	29	13	1
29	29	1	29	1	29	1	29	1	29	1	29	1
31	31	16	6	11	26	1	31	16	6	11	26	1
32	32	9	8	11	2	29	18	16	22	4	23	1
33	33	4	27	16	3	29	12	11	13	9	17	1
34	34	1	34	1	34	1	34	1	34	1	34	1

判るように  $x^{(p-1)(q-1)/2} \equiv 1 \pmod{pq}$  となっている。

演習問題 6

$p = 3, q = 7$  のときに上記の表を作成せよ。

公開鍵暗号 RSA の基本原理

$\mathbb{Z}/pq\mathbb{Z}$  のある数  $x$  (データ) に対して、 $(p-1)(q-1)$  と公約数が 1 以外にない数  $e$  を用意し、 $d = e^{-1} \pmod{(p-1)(q-1)}$  を計算し、鍵として  $d$  を記憶する。  
 $(pq, e)$  を公開し、公開した  $pq$  によりデータ  $y = x^e \pmod{pq}$  を計算し、 $y$  を送る。  
 これを送られてきた側で  $y^d \pmod{pq}$  を計算する。  
 $y^d = (x^e)^d = x^{de} = x$  となり、復号ができた。

公開鍵暗号のトイモデル I I RSA

アリスは例えば、 $p = 5, q = 7$  を選び、 $((p-1)(q-1) = 24)$   $e = 31$  を例えば選ぶ。  
 公開鍵としては  $(35, 31)$  を公開する。他方、 $31 \times 7 \equiv 1 \pmod{24}$  より  $d$  として 7 を記憶する。  
 ボブはデータとして  $x = 17$  のとき、 $y = 17^{31} (= 17^7) = 3 \pmod{35}$  を暗号化されたデータとして送る。  
 復号は、 $3^7 = 17 \pmod{24}$  とすればよい。

演習問題 7 : 公開鍵暗号のトイモデル I I (add)

$p = 7, q = 13$  の場合に上記の RSA 暗号を模擬せよ

課題

上記、演習問題 1 ~ 6 までの指示されたものをレポートにまとめワードファイル 5SXX\_kadai10 として提出せよ。(必須)  
 余裕がある人は演習問題 7 を示し、ワードファイルにまとめ提出せよ。5SXX\_kadai10add として提出せよ。